

# 鋼管マルチ継手型

特許第445812号

兼用型では対応できない  
漏れをカバーします。



鋼管(ステンレス管を含む)と、様々なネジ込み継手との接続箇所からの漏れを補修することができます。継手の端面(ふち)のみを押さえるため、継手の寸法や形状に関係なくご利用頂けます。水・湯・オイル・蒸気の各流体の漏れを止めるのに最適です。

## 主な仕様

- 耐圧力: 1MPa (10kgf/cm<sup>2</sup>)
- 耐熱温度: -30°C ~ 130°C

ホーム  
ページは  
こちら▶  
(取付動画)  
公開中



## サイズ・構造

単位: 寸法=mm

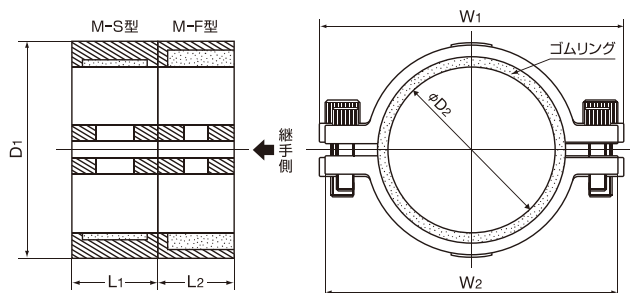
型番	D1	D2	W1	W2	L1	L2	使用六角レンチ	
M15A	42	22	81	81	24	27	8	8
M20A	47	28	88	88	24	27	8	8
M25A	54	35	94	94	24	27	8	8
M32A	66	43	114	108	28	29	8	10
M40A	72	49	119	115	28	29	8	10
M50A	87	61	142	138	30	27	10★	12★
M65A	102	77	160	156	30	27	10★	12★
M80A	119	90	184	176	32	27	10★	14★
M100A	144	115	210	202	32	27	10★	14★

(注1) 50A以上のものには六角レンチとパイプハンドルが付属しています。

(注2) この圧着ソケットは、従来の兼用型では対応できなかった継手箇所に幅広くご使用できますが、通常のエルボ、チーズ、ソケット等で兼用型で対応できる箇所は、できるだけそちらの方をご使用ください。(耐圧力は兼用型は2MPa、マルチ継手型は1MPaになります。)

(注3) 直管部の修理にはご使用できませんのでご注意ください。

(注4) 管の腐食等により、これを取り付ける事によってその箇所が破損する恐れがある場合は、ご使用にならないでください。



付属品(★/50A以上)  
六角レンチ2本



パイプハンドル

# 鋼管マルチ継手型圧着ソケット使用方法

## 1 前処理

補修部分のサビやシーリング材をワイヤーブラシ・ヤスリ等で落とします。サビこぶ等の付着物はノコ刃等で確実に落とし、段差部を直角に仕上げてください。



## 2 ゴムリングの取付け

管にゴムを巻き付け、継手の端面（ふち）にゴムが接するように移動させます。



## 4 M-S型金具の取付け・締め込み

M-F型金具の後方（継手から遠い側）に、M-S型金具を取付けます。M-F型金具が継手から離れないように、M-S型金具を前へ軽く手で押しながら回らなくなるまで強く締め込んでください。



## 3 M-F型金具の取付け

M-F型金具をゴムの上にかぶせ、軽くボルトを締め、パイプに固定してください。その際ゴムと継手部分の間に隙間ができないように注意してください。（※ゴムのつなぎ目が金具のKKマークの中心付近にくるようにかぶせてください。）



## 5 M-F型金具の締め込み

最後にもう一度、M-F型金具をボルトが回らなくなるまで締め込んでください。50A以上のサイズについては、六角レンチとパイプハンドルが付属していますので、最初は六角レンチだけで締め込み、レンチの締めが重くなればパイプハンドルをレンチに差し込んで、両手で締め込んでください。



### 違いは耐圧力!

### 継手箇所の圧着ソケットの使い分け（兼用型とマルチ継手型）

マルチ継手型の開発で、兼用型では対応できなかった下記記載の継手部も補修が可能になりました。マルチ継手型の名前の通り、いろいろな継手に対応できますが、兼用型との大きな違いは「耐圧力」です。兼用型の耐圧力は2MPa、マルチ継手型は1MPaになります。通常のエルボ、チーズ、ソケット等、兼用型で対応できる箇所は、性能・コスト面から、できるだけ兼用型をご使用ください。

### 取り付け可能な継手部の適用範囲の一例

